

今回の瓦版では、平成29年1月31日（火）に開催した「平成28年度地域づくり交流会」の結果をお知らせします。県内各地での地域づくりの参考にいただければ幸いです。

平成28年度地域づくり交流会 結果報告

1 開会あいさつ ～地域づくり交流会の開催にあたって～

福島県土木部参事(復興・まちづくり担当) 堀田洋一

- 本交流会は、県内各地で地域づくりに取り組む方々やまちづくり団体、市町村及び県職員などが地域づくりの課題について話し合い、取り組みやアイデア等を考え、今後の地域づくりに活かすため、平成16年度より開催している。参加者相互の意見交換や交流により、地域づくりを担う皆様にとって有意義なものにしていきたい。



堀田土木部参事

2 基調講演

「持続的な住民主体の地域づくりの進め方」

公益社団法人 中越防災安全推進機構震災アーカイブス・センター長 稲垣 文彦 氏

- 住民主体の地域づくりが継続している集落の再生プロセスには共通性がある。
- 閉鎖的、依存的な集落を開放的、主体的な集落に変えるには外部とのつながり、小さな成功体験の積み重ね、共通体験が必要。
- 集落再生プロセスには3つの段階があり、段階に合わせた支援が必要となる。
 - 住民の依存心や諦め感を払拭し、当事者意識を醸成する段階
 - 住民の主体性と共通認識が生まれる段階
 - 集落の維持・活性化に向けた継続的な活動を進める段階
- 「足し算の支援（寄り添い型支援）と掛け算の支援（事業導入型支援）」
閉鎖的、依存的な集落（マイナスの状態）にいきなり事業導入（かけ算の支援）をしても効果が無い。まずは、地道な寄り添い型支援（足し算の支援）を行い、集落の力をプラスの状態にすることが大事。
- 住民の不安と悩みに寄り添い、共通体験を通じて住民の依存心や諦め感を徐々に払拭することで住民の当事者意識が醸成される。住民自身の目標が明確になってから、専門的な支援等により目標を達成していくプロセスが大切である。
- 最近の都会の若い子で、地方で生活したいという声が増えてきている。若者の気持ちの変化をうまく取り入れて、地域づくりの足し算のプロセス、かけ算のプロセスを進めていくことで持続的な地域づくりに繋がっていくのではないかと。



稲垣文彦氏

【基調講演に係る参加者アンケートから】

- ・地域づくりの進め方の手順、法則（あくまで住民主体でなくてはならないこと）について特に印象に残った。
- ・住民主体の地域づくりについて、足し算の支援と行程をじっくり行うことが大切なのだと学んだ。「ヒト」という地域資源を大切にしたい。
- ・実体験に基づくもので非常に参考になった。「地域づくり」は焦ってはダメ。

3 事例発表会

「農家民泊による教育旅行と6次化商品開発による地域づくり」

南会津町たのせふるさとづくり会会長 星 利一 氏

◆たのせ地区とは

たのせ集落は南会津町館岩地区にある12戸21人の小さな集落で、高齢化率は66.6%。限界集落に危機感を持ち、芝浦工業大学との連携により、花木による景観づくり、直売所・特別漁区の開設、教育旅行の受け入れ、6次化商品開発など様々な地域づくりに取り組んでいる。こうした地域づくりの活動が評価され、平成23年度には豊かなむらづくり顕彰事業のむらづくり部門で農林水産大臣賞を受賞。今では集落人口の約200倍にあたる年間約4000人の交流人口が訪れ、南会津地域全体の活性化に繋がる大きな成果を上げている。



◆主な取り組み

- ・芝浦工大と地域住民・行政が連携し「花の御宿の里づくり事業」で山桜・こぶし等の職栽を始める。
- ・県のサポート事業を活用して、芝浦工大と「たのせ地域づくり計画」を策定。
- ・ふるさと祭りを開催して直売所で特産品を販売、芝浦工大学園祭にも出店。
- ・農産加工施設「山川ふれあい処」を学生との協働作業で整備。
- ・ヤマメの里として館岩川700mにヤマメの特別漁区を設定。
- ・農家民泊、教育旅行の受け入れ。アメリカや韓国等の海外からも受け入れている。
- ・たのせブログ開設。
- ・農産物加工設備を導入して6次化による特産品開発。



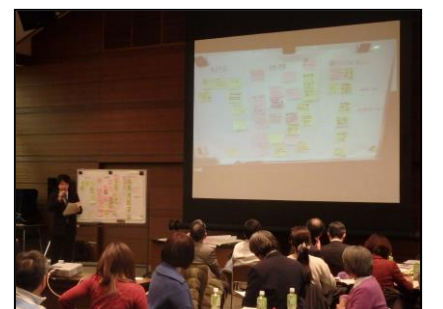
【事例発表会に係る参加者アンケートから】

- ・地域が頑張っている事例として参考になりました。地域づくりを行うきっかけやプロセスについても聞きたかった。
- ・住んでいては気づかない財産があることとその活用化についての若い発想。それを取り入れる柔軟い思想について印象に残った。
- ・まだまだ6次化についての知識が少なく、他の事例をもっと学びたいと思った。

4 交流会（グループ討論、全体会）

以下をテーマとした5グループに分かれ、ワークショップ形式で討論し、発表しました。

- ①「活動の継続」
- ②「若い世代への継承」
- ③「復興まちづくりとコミュニティ再生」
- ④「特産品による地域づくり」
- ⑤「多角的な視点の活用」



全体会 各グループ発表

各グループから出された課題やアイデア等は次のとおり。

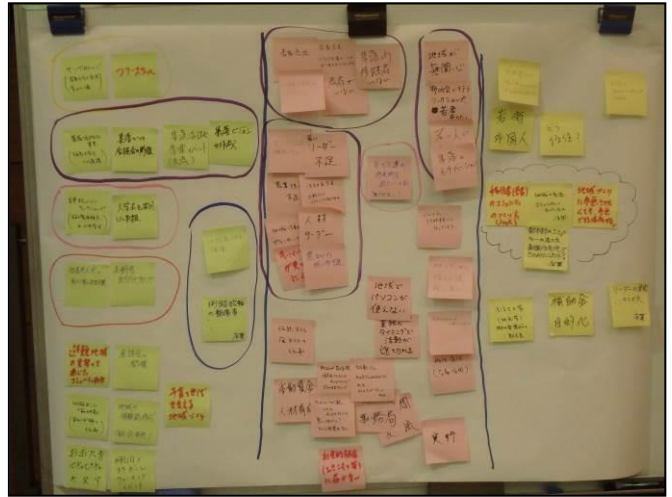
①グループ「活動の継続」

- 地域にあるものを最大限に活用して、地元のための活動に取り組んでいる。観光マップ作成、街並みの保全、オリジナルの踊りの普及、並木の保全等。
- リーダーをどうするか、若い方が少なく活力が年々落ちている。
- 地元の機運を高める。情報発信のツールが大事。(複数の投稿者で更新するようなブログ等のSNS 発信)
- 地元の企業に働きかける。直接の話し合いの場を設け、集落の中での価値観の共有を図るとともに外部の意見を取り入れる。



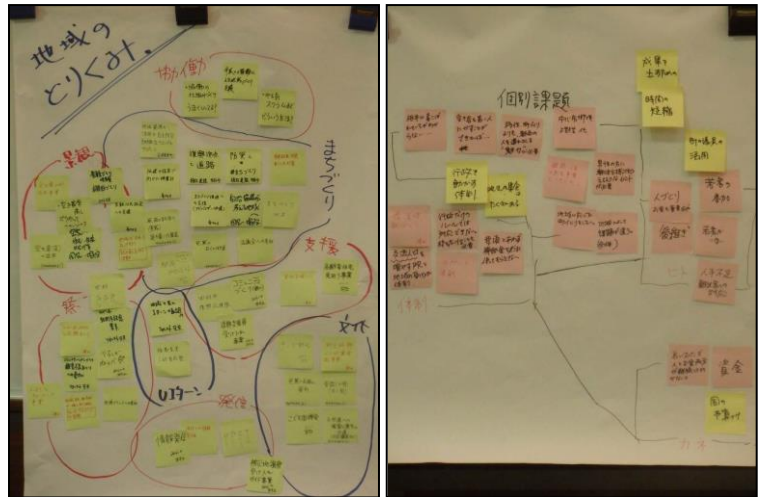
②グループ「若い世代への継承」

- ・子どもの頃から役割を持たせ育ていく。
- ・人との交流（地域の中での声かけ）。子どもたちが自由に遊べる場所を作り、その場を中心に地域の輪を広げる。
- ・地域の瓦版を発行する。
- ・取組を行う際には具体性が大切。小さな時から地域全体となって情熱を持って教育をしていくことで、地域に対する関心・知識を持った子どもが育っていく。
- ・目に見える成果によって住民意欲を向上させる。



③グループ「復興まちづくりとコミュニティー再生」

- ・地域のつながり強化のため、住民と行政の協働を図る。
- ・地域の取り組みとして、景観、空き家対策、協働の仕組み作り、防災、ワークショップ、まつり・イベント、1ターン・Uターン、郷土料理、地域の歴史文化、情報発信等が挙げられた。
- ・体制づくりの方法、交流人口を増やすような取組、資金、若者の参画方法等について議論し、行政を動かす取組を進めることや、効率化を図ることで資金を確保する等のアイデアが得られた。



④グループ「特産品による地域づくり」

- ・日和田町の特産品の「凍み豆腐」について、意見交換を行った。
- ・若者が注目するような活用アイデアについて、外部の方を交え話し合うことで、考えのマンネリ化を防ぐことに役立つ。
- ・クッキーなどの新商品開発について議論ができた。



⑤グループ「多角的な視点の活用」

- 地域づくりにおいて、大学生を初めとした外部の力を借りることは効果的だ。若い力、新しい視点を地域づくりの参考にできる。
- 大学がバックグラウンドとして持っている人材、技術、能力、研究組織を活用して、組織的に地域のニーズ・課題を見つけられ解決策を提示してくれる。
- 地元の方の受入に対する姿勢は様々であり、理解を得るための工夫が重要。



コーディネーター 稲垣 文彦 氏 より ~全体会を通して~

- 一番大切なのは、一人一人の生き活きとした生き方をよみがえらせることであり、地域づくりの根本である。
- 一人一人が心を開き、いろいろな人と出会ってエネルギー交換する。お互いの中で認め合うことで元気が出る。まずは一人一人の生活に関心を持つこと。
- ここで一緒に暮らしたいといった生き方への共感が、移住してくる方の決断の根底にある。一人一人が暮らしてよかったと思える地域を作る。その先に集落の存続がある。
- それぞれの地域づくりの取組の中で、自分のわくわくとした生き方を広めていくことで地域が変わっていくと考える。



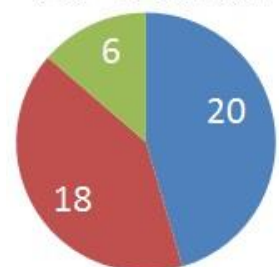
稲垣文彦 氏

【グループ討議に係る参加者アンケートから】

今後の地域づくりの参考になったこと

- 抱えている課題はそれぞれあるが、共通しているものも多くあるのだと思った。
- 外部との交流が大きな影響をもつことが分かった。
- 気付かない視点の意見が聞けて良かった。
- 都市部、郡部の参加者では抱えている問題や課題が大きく異なると感じた。
- 大学(若い力、考え)と地域の連携によって地域づくりを行うことが効果的だと思った。

グループ討議の感想
(アンケート回答者44人中)



- 大変参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない

【地域づくり交流会全体に係る参加者アンケートから】

地域づくり交流会への要望

- グループ討議の人数が多すぎる。
- グループ討議の時間が短かったので長くして欲しい。
- 冬になる前の開催が望ましい。

5 閉会あいさつ

福島県まちづくり推進課長 諏江 勇

- 今後の地域づくりを進めるにあたり、ヒントが得られたならば幸い。本交流会で初めてお会いした方とお話したことをきっかけに、今後の更なる交流に繋がっていくことに期待したい。



諏江まちづくり推進課長

■編集後記■

地域づくり交流会は、平成 26 年度から 2 年ぶりの開催となりました。各地の地域づくりの取組についてお話を伺うことができ、主催者側としても大変勉強になりました。

次年度も皆様からいただいた意見を参考にしながら有意義な交流会を開催したいと考えております。

また、地域づくりを進める上での質問等がありましたら、まちづくり推進課へ遠慮なく連絡下さい。

土木部メールマガジン登録受付中!!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、メルマガ登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>) からご覧いただけます。

メールマガジン（無料）の配信をご希望される方は
【土木部メルマガ希望または、解除】
をお書きのうえ下記アドレスまで
メール送信して下さい。



doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp

土木企画課(システム担当) 024-521-7886

【まちづくり瓦版 発行元】
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511
FAX 024-521-7956
e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp